

大橋公一東京川島旭章、原田旭鳳、絃旭萃、茨木一愛知堀田旭甲、大阪寺尾旭吉、絃旭萃、川中島一箱根押川旭葉、北の庄一彦根林田旭城、巖島の戦一広島菊地蘭、戦艦大和、大阪三木旭照、神戸久徳旭蘭、淡路の輪丹生谷旭春、絃旭萃、都落ち一広島板谷旭邑、粟津ヶ原一千葉木下旭竜、安宅一山崎旭萃

鶴田錦史 鶴田師が平素交流しているメ、演奏会、ンバーにより十一月二十三日(木)夕六時半から新装成った東京上野の本牧亭で開催盛会であった。新しい琵琶芸術を求めて模索する一方、こうした伝統を尊ぶ催しを今後とも続けたいとの主催者側の念願で誠に結構なことである。新曲白虎隊一田中雪男、緒方満博、鶴田錦史、湖水乗切一笹本斐水、本能寺一内山窓水、扇の的一半田史幸、西郷隆盛一荒川州帆、敦盛一石坂南水、新撰組一友吉登水、舟弁慶一山口速水

青柳吉之介 舞台芸能に日本精神を表、琵琶史劇舞踊、現するのを主眼として十二月七日(木)十時半東京日本橋の三越劇場で首記が開演され芸界の権威多数の参加で盛況を呈した。團丸一佐藤旭天紅、立方青柳吉弥、母常盤一津谷敏佳、安宅一井坂旭良、立方青柳吉翁、松の廊下一水藤五郎、小沢錦弥、児島高德一天野旭風、立方松本竜之助、青柳吉之助、羅生門一押川旭葉、秋風故郷の山一原島旭粧、岡田旭運、高野旭美、立方青柳吉之助、外五、尺八石高琴風、白虎隊一鈴木流泉、大橋公一山崎旭萃、大高源吾一水藤錦種、赤垣源蔵一佐藤旭天紅、井坂旭良、立方青柳吉之助、外七、外に新舞踊、小唄振、新内、講談、義大夫、新法話等十九題

三美会 田中鵬水、矢吹華水両氏主宰、忘年会、の京都三美会では旧臘七日(木)午後三時から二条城前の京都観光ホテルに近府県の琵琶人教氏を招き来年三月十一日京都四條の山一ホールで開催計画の女流琵琶演奏会に就て協議し六時から放送局、新聞社等の報道関係者をゲストにドリルに於て豪華な沖繩料理でビールの満を引き八時散会した。

大石神社に 大阪琵琶同好会は十一月九日(土)午後三時から京都山科の大石神社で行われた「内蔵助と四十六人の仲間」の催しに寸劇の間を縫って筑前「松の廊下」を石橋旭嶺、寺尾旭吉、辻旭城、錦心流「山科の別れ」を野尻撰水、中山風水の五氏が社前で献奏した朝日テレビでは演奏中の五氏を現地生放送した。

京都琵琶協会 (次号詳報) 忘年会 告一、〇：京都琵琶協会一月定例茶話会 一月十三日(土)午後一時大津市逢坂一丁目一三〇三三三松岡旭岡氏方(京阪電車上栄町下車直ぐ) 〇：各流派合同演奏会 一月十日(水)十一時東京日本橋三越劇場(錦心四、薩摩七、錦三、筑前七)入場料五百円 〇：日本琵琶振興会一月例会 一月二十八日(日)正午、東京新宿の山田州鳳氏宅ホール 〇：水藤錦種氏放送 一月九日午後二時NHK第二ラジオ「しぐれ曾我」(二十八分) 〇：秋元旭彦氏 大阪府三島郡島本町桜井四

丁目一八ノ一〇に変更 〇：東錦童氏 十一月六日午後八時半腸閉塞のため逝去。山口錦堂門下の逸才で夫人は錦心流細目錦糸、筑前本庄旭優の両芸号を有し琵琶一家として知られている。(横須賀市浦和町一ノ二一) 御冥福を祈る。

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は陰に陽に先輩絃友同好各位の厚き御交誼御支援を頂き誠に有難く感謝の極みでございます。本年もよろしくお願い申し上げます。NHKの新平家放映によって平家物語に縁の深い琵琶も急激に復興のきざしが見えて来たことは御同慶の至りである。意気を以て今年も大いに張り明治大正時代の琵琶全盛期を取戻したいものと熱望して居ります。本号は年賀交礼のお申込みと各地からの御寄稿が多くて致意の有益且興味ある記事も割愛し次号以下廻しとするのやむなき事となり巻頭に予定していた堅苦しい「年頭の辞」も殊更遠慮いたしましてご執筆者には申し訳ありませんがどうかご容れず御寛容下さるよう御願ひ申し上げます。年頭に当り今年が皆様様に幸福一ばいの年でありますよう念願いたします。

昭和四十八年一月一日発行(非売品) 編集者 植村真水 発行所 京絃社 〒569 高槻市津之江北町一ノ二三 電話〇七二六(85)六〇五一番

琵琶 京 絃

絃

第二二三号 京絃社

狂醉亭漫録(第八十六) 赤穂義士の最期(一)

古谷 竟水

昭和癸丑歳首まず一場来復の質詞を申述べます。本稿も去る昭和三十九年起稿以来断続し乍らも十年目の春を迎え、私も馬齢七十九歳の余生を保ち、引続き執筆致しますので、燕文乍ら御一采をお願ひ致します。

尚、当癸丑歳は漢土東晋穆帝永和九年(西紀三五三年)春三月、王右軍が会稽山陰蘭亭の地に禊事を脩し曲水の宴を張り、其の絶作蘭亭叙を草して以来実に二十七周甲に当り、私共書道人には記念すべき年でもあります。さて永年記述して来た義士伝も愈々最期を迎える順序になるが、之は世上では余り知られていないので稍々詳細に記す事にする。

義士断絶の件に就ては昨年二、三、四月号にて述べた通りであるが、此事は早くも義士達に予知されて、一党は既に処刑の近づいたのを知り各々心準備に取懸った。殊にお預入に最も同情ある細川邸の義士は、それと無く遺書等も草して接伴係に委託した。一日富森助右衛門は一党の希望を代表して堀内伝右衛

門に向い、「何れも此度の仕儀に就いては、斬罪と覚悟の処、世上の批判等追々伺い、自然は切腹等結構を御沙汰を仰付けられる事もや、又それならば御邸以外に於てかとも存ぜられ万一左様ならば、死後に親類縁者等から如何に申出あるも、十七人の遺骸をば泉岳寺内にて一つ穴にお埋め下さる様」と申し出た。堀内より藩の大目付長瀬助之進を通じ細川侯に上進した処、侯も尤も千万の希望と感嘆され内許された。又他の三家へ御預連も同様の希望を申出て置いたものと見える。

其翌日、吉田忠左衛門は堀内に「昨日富森を以て申入の件早速御受合下され、添う存じ奉る。就ては拙者一個の事乍ら、拙者はお見掛通りの通体、殊に年寄の大きい骸骨は一入見苦しと存ずる。茲に少々金子持参仕れば、是にて白布お買取の上、二重の大風呂敷にして四方に釣を付け死骸の見えぬよう其中にお包み下さるよう、御懇意に委せ御依頼申上げます」と言い乍ら阿々大笑した。

越えて二月二日の夜、上戸の大石、原、磯貝は酒を、下戸の吉田、間瀬、小野寺、堀部弥兵衛はアマミゾレと称する銘酒を酌み交わしていた際、丁度堀内伝右衛門が顔を出したので、大石は「これけい処へ」と一一座に引入れ各々から益を差したので遂には「是は堪らぬ」とて下の間へ逃げ込んだ。之は細川家へ到着以来、堀内の数々の感情に対する大石の現世生別の挨拶であったのだ。

細川家に在る領袖連は日頃卓した書類を一括し寺井玄深の許に托するのであるが、之に對し、大石外二人の名義にて追啓書を添付した。之は討入の模様から細川家接伴の次第、同志及離叛者の動静を記した長文であるが、其中の二三の項を抜萃する。

一、手負候者近松勘六、横川勘平兩人にて、少之儀にて候。勘六は誤て泉水に落申候、敵出会申候故致す所か手負申候。早致本復候。勘平は僅かの手にて本所より泉岳寺迄、泉岳寺より仙石様迄も、致歩行候体の事に候。一、怪我人も表より入候者の内屋根を越申候に付、雪後の屋根にて滑り候て足手をくじき申候。其当座は働き間に合せ候。暫く有て腫まし候て痛み、迷惑致候。早速療治被仰付候故大方致快候。与五郎も其通と存候。此節不及療治候に候へ共及末期不自由見苦敷も如何と存医者衆差込に委せ候て致養生候。一、主税は冬相煩候儀、玄達老可為御演説候。透と致本復只今に至り無恙候由毎度承候間、可御心易候。

一、越中守様へ参候皆共、段々御丁寧御結構之儀、兎角難申述候。旧冬は急之儀故、御書院の次、御玄関の上の間に九人と八人被差置候。其後外の処かこひ被仰付、先月二十日頃に出来、越中守様わざと此御屋敷へ御出御見分被成、又御好み等有之候て出来、二十六日に移替申候。衣服は其当座より段々と役人衆より被下、其外之儀何に不自由之儀無之候。尤旧冬十五日之夜御屋敷へ参候即刻、越中守様御出随分の御称美、御懇之御意結構至極之儀に候。御頂被成候儀御満足之御意に候。

其後此頃に至候て内記様御出御目見致候。昨日は御同姓采女様、主税様も是へ御出被成候て御目見致し、生涯の面目にて候。十五日以来御料理等迄御丁寧にて二汁五菜屋夜三度御馳走人、初中後同然之御挨拶にて御頂に候へば窮屈成次第と可被思召候。不謂儀迄此の如くに候。

一、其許了簡達之衆、彼是爰許へ下りし由承候。如何なる所存にて至此時下り被申候哉と存候。岡林全旧冬二十八日に自滅の由、兄弟衆の異見と相聞候。

一、伏見筋に御存じの者か、又大塚屋方等へ御便も候はゞ、片岡源五右衛門妻子伏見に有之候間、源五衛門無事に有之と此次第も御伝可被下候。

一、十内宿之儀此体御伝此状御届可被下候。

一、此度之儀首尾能噂のみ承候。心あしき沙汰有之候とて、此節之身に可申聞人も無之候。乍去此度仕損じと存候儀も無之候間、侍之法

外の御仕置には罷成るまじきやと、たのもしく存候。只今に至り旧冬より栄耀最後之楽不遇之候。恐惶謹言

二月三日
原惣右衛門
小野寺十内
大石内蔵助

短歌琵琶

薩摩琵琶高昇流

泉勝院 峰 口 高昇

薩摩琵琶も筑前琵琶も昔から我國の人々に親しまれ、広く愛唱されて参りました。しかし簡易を喜ぶ今の世相にあわなない事もあるだろうと思ひ、現代の人にヒットするように長くても三百字、しかも古事あり文学ありの名文を「短歌琵琶」と名づけて作ってみました。最初は「百人一首の巻」次ぎが「万葉集の巻」そして「現代集の巻」と、順を追って参りたいと思ひます。必ずや皆様方の心をとらえることゝ存じます。諒せられよ。

謹賀新年

竹下翠風
東京都杉並区下高井戸
五ノ二二ノ二二
電話〇二二(803)五八九四番

錦水会 薩摩琵琶
四明会・正絃会・さつき会・会員
岡部 錦蝶
大阪市西区京町堀五の十一
電話(41)一九六六(伊勢谷方)
東京都新宿区西新宿四一八一十
電話(37)八一一一一四

戸倉旭嶺
〒520
大津市中央一丁目一〇
電話〇七七五(24)五〇六五番

泉勝院 峰 口 高昇
薩摩琵琶高昇流家元
和歌山県白浜温泉法通走り湯
白良ヶ丘
電話 二三六八番

百人一首の巻 鹿の声 斎藤五城先生監修
わが庵り 小倉の山は日に映えて
山一色の濃き紅葉 稜の罫や唐錦
目覚むる許りの眺めなり遙かの峰は薄霞み
麗の紅葉交々 姫舞う姿に似たれども
別れの舞とも思われて秋はひとしお物思う
袖に涙のひと時雨 陽は今まさに入相の
徳の色と競うごと 気は澄み渡り秋風の
そぞろ身にしむ夕げかな 麓の庵り灯もたらで
心静かに端座せり 天地閑寂として鳥語な
く人語なし

ふせて都をしのばるゝ親同胞のせめぎあい
近江大和と移り来て 大海子天智の傷の跡
従弟の君も強せらる 明日は我身と思し召す
心の内ぞ哀れなる
み吉野の山の風の寒けくに
「はたや今宵も我がひとり寝む」
現代集の巻 諫死の誉 斎藤五城先生監修
函破れて山河あり 国際情勢今や危機
昨日の友は今日の敵 自衛の力持たずして
いかで日本を護るべき
ますらをの たばさむ刀にさやなりに
いくとせたえて今日の初霜
八絃一字の聖戦に 敗れし国へのみせしめと
三島は立てり楯の会 昭和四十五年の
頃は霜月二十五日 手なれし中の五名にて
紅葉散りしく市ヶ谷の防衛本部に乗り込みて
二千の隊士を前にしてなごて立たる隊士諸士
我日本の国柄の 君民一如の大御業
護らぬ主は自衛隊 いま君にして立たずんば
陸海空の自衛隊 日本画家のいしづえと
誇らん時はきたるまじ時逸すればそれなりに
悔を残さん万世にと 醇々説くや惟神
されば隊士は終りまでもたしてつくり計りなり
今は是迄なりと三島由紀夫 総監室に立ちもり
家伝の宝刀関の孫六 うやうやしも捧げ持ち
残る同志に介錯乞ひ 腹一文字にかきさばき
森田と共にうせけり散るをいとう世にも人に
先かけて散るこそ花と称える三島の諫死也とうに
國のみいつを照らさん諫死の美季世に残す」

謹賀新年

田中 敏水
〒658
神戸市東灘区御影中町一ノ二四ノ二五
電話(85)一二六三番

星野 薙水
〒011
秋田市土崎港中央四ノ九ノ二六
電話(46)三三三四番

熊木 秀司
〒350
埼玉県川越市南通町一ノ二ノ二
電話 川越(22)四四六一番

浅見 淳水
〒664
伊丹市荒牧 日生住宅内

琵琶の保存と修理(七)

琵琶修理用接着剤の

種類と用途(上)

鈴木 流泉

秘友の皆様、お元気ですか。本年もよろしく御願ひ申し上げます。
今回は表題に拠り、接着剤のことを取上げて、私の識る範囲を茲に御披露してみようと思ひます。些かでも読者諸賢の御参考になれば幸せです。

或る演奏会で、演奏中に琵琶の中段の柱(コマ)が落ちて、しかもそれが最後の演奏であつたため代りの楽器が間に合わず、折角の弾法も意に任せぬまゝ終りになってしまった事がありました。聴いていた私共にとつてもまことに残念に思ひました。

柱が落ちたのは、即ち接着剤使用法の誤りに因るものでしたのです。それはその人の出演時刻の三時間余も以前の事であつたにも拘らず、補填修理が完全でなかつたのは、それに当面した人達の接着剤に対する知識が、如何に乏しかったかを如実に示して居ります。

その時、その急場を凌ぐべき購入した接着剤は、使用法の最も厄介な「#2」(後述「種類」の項参照)だつたのです。このような場合は直ぐ間に合う「#4」(前に同じ)でなければいけません。

あとで詳しく説明しますが、前記「#2」でもその使用法をよく心得ていさえすれば、接着後三時間余を経過してそのような脆いハガレ落ちかたをする筈はなかつたのですが、その時の緊急処置に当つた人達は、接着剤の性質も使用法も殆ど弁えていなかったためでしょう。このような演奏中の災難を避けるためにも、接着剤の事は充分知つて置いて頂きたいと思ひます。

「柱の付け替え」「サワリとり」等、一切琵琶製作者任せではイザという時に窮してしまふこととなります。楽器の製作・修理・塗装、それらを見て勉強して下さい、とまでは申しませんが、少くとも「柱の接着作業」くらいは自分で出来る様にして欲しいものです。そうすれば楽器だけに限らず、日常家庭用品の修理等にも役立ち、非常に便利であると同時に、また誠に楽しい事でもありません。なお一言つけ加えて置きますが、皆さんが最近の接着剤に対する知識に乏しいのは当然の事です。つまり昔から在つたものではないのですから。それ故に一つの失敗事案を取上げて記して皆様方の注意を促し、これを一応勉強して頂こうと思つたわけでありませぬ。では、今日一般に使われて居る五種類の接着剤の性質と使用法の記述に移りましょう。

(1) 種類
#1 セメダインホワイト・木工用
#2 セメダインコンタクト・合成ゴム系

謹賀新年

錦心流琵琶

一水会大阪支部
会 員 一 同

〒570
守口市緑町土居団地十一号
小川吟水方
電話(992)五六二五番

錦心流琵琶

一水会神戸支部
会 員 一 同

〒650
神戸市生田区山本通四丁目七一ノ五 蔵本司水方
電話(221)一七四九番

仲川秀邦
旭朋

〒164
東京都中野区中央二丁目三ノ六
電話(361)七七四〇番

函館琵琶協会
函館吟詠連盟

会長 高橋蘇水

〒040
函館市大手町一六ノ一〇
電話(23)四一五六番

若宮旭登

〒189
東京都東村山市美住町一ノ四
久米公団九二〇四
電話〇四二三(91)九三二二番

井上義雄

〒176
東京都練馬区北町三ノ二八
大宏ビル四〇一
電話九三一―二六二七番

錦心流琵琶

大井錦淀

〒369-12
埼玉県大里郡寄居町玉淀
電話〇四八五(80)一七四〇番

内藤欧水

〒418
富士宮市小泉五〇一ノ三
電話富士宮七―六二五七番

年 新 賀 謹

〒154

東京都世田谷区太子堂二丁目
二番八号
電話(414)六五七八番

宮 崎 直 二

〒114

東京都北区田端町一五三
電話八二一六六六二番
振替 東京二〇〇四一番

理事長 鈴木 鉦次郎

日本芸能顕彰会

全国朗吟文化協会総本部顧問
全日本剣舞道連盟総本部顧問
東京都吟剣舞詩舞連合本部顧問
日本国風流詩吟会総本部顧問

〒662

西宮市羽衣町七十三四
電話(0798)三三一五八八七番

三 浦 蓮 水

錦心流琵琶吟連水会

詩吟部一同
宮村木條溝遠千川吉田楊吉山三竹反井
崎上宮田脇藤葉上田村 山崎浦内町上
昭富ま光治吟吟吟吟吟蓮蓮蓮優紫碧
さ
依子子子子子泉糸葉魁清紅桜光水水水

年 新 賀 謹

〒173

東京都板橋区板橋一丁目二十一番
四号
電話(961)一一〇〇番

池 上 作 三

〒569

高槻市津之江町二丁目一二ノ三
電話〇七二六(71)六五八〇番

山 崎 光 椽
山 崎 旭 萃

筑前琵琶橋会宗範
大和流琵琶吟家元

〒536

大阪市城東区蒲生町一丁目七七
電話(931)二二五二番

天 津 八 千 代

現代琵琶連盟
双鶴流家元

年 新 賀 謹

<p>四十八年演奏会予告 六月一日夕第一証券ホール 十一月九日夕日経ホール 錦 桜 懷 会</p> <p>ラジオ放送 一月九日午後二時NHK第二 「しぐれ曾我」(二十八分)</p>	<p>〒176 東京都練馬区旭町三ノ二一ノ四 電話(930)四四九八番</p> <p>錦琵琶宗家</p> <p>水 藤 錦 穰 水 藤 五 郎</p>
--	---

<p>〒060-91 札幌市南六条西七丁目 電話(011)五一一一八三四八番</p>	<p>広 川 岳 楓</p>
--	----------------

<p>〒420 静岡市西草深町二一ノ二〇 電話(0542)53-1471番</p>	<p>赤心流琵琶 家元 赤心詩吟</p> <p>森 鶴 堂</p>
---	---------------------------------------

年 新 賀 謹

<p>〒160 研究演奏会場(毎月第四日曜日) 東京都新宿区新宿一ノ二八 山田州鳳ホール 電話(03)352-7366番</p>	<p>鈴 木 流 泉</p>	<p>日本琵琶振興会</p>
--	----------------	----------------

<p>〒930 富山市太田口通一ノ六ノ二四 電話代表(25)三七四一(店) 同(24)七六八六(宅)</p>	<p>田 中 愛 水 田 中 歷 水</p>	<p>錦心流琵琶一水会富山支部 北陸琵琶同好会本部</p>
--	----------------------------	-----------------------------------

<p>〒651 神戸市葺合区上筒井五丁目四ノ二 電話(078)22-1161番</p>	<p>宝塚花組 上 原 ま り (柴田旭艶)</p>	<p>筑前琵琶 柴 田 旭 堂</p>
---	------------------------------------	-------------------------

年 新 賀 謹

〒370-12

高崎市岩鼻町局前二四七
電話〇二七三(46)二〇〇六番

宗家 針谷 錦古
日本錦古流詩吟会総本部

全国朗吟文化協会
関東 副部長
テイタクレコード専属

〒602

京都市上京区東堀川通榎木町角
電話(211)四〇三三番

中島 旭 穂

日本旭会所属

〒602

京都市上京区今小路通七本松西
伊吹方 電話(461)六三四八番

京都琵琶協会

伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹
伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹
伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹
伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹 伊吹 戸倉 東吹

年 新 賀 謹

〒520

大津市逢坂一丁目二二ノ三一
(蟬丸神社前)
電話大津(24)九三二八番

松岡 旭岡
伊藤 旭暢

〒124

東京都葛飾区堀切二ノ六〇ノ三
清和荘
電話(03)六九三一七九三(呼)

〒238

横須賀市富士見町三ノ一七
電話(0468)二二一三七七五番

東洋音楽学会々員
邦楽鶴鳴会主宰
史城 普門 義則

〒603

事務所
京都市北区平野宮西町六四
平井春嶺 方
電話〇七五(462)一四二三

正派 薩摩琵琶四明会

京 都 会 員
大 阪 市 伊 丹 野 間 山 崎 藤 井 小 林 香 川 部 岡 部 香 川 部 岡 部
大 阪 市 伊 丹 野 間 山 崎 藤 井 小 林 香 川 部 岡 部 香 川 部 岡 部
大 阪 市 伊 丹 野 間 山 崎 藤 井 小 林 香 川 部 岡 部 香 川 部 岡 部
大 阪 市 伊 丹 野 間 山 崎 藤 井 小 林 香 川 部 岡 部 香 川 部 岡 部

「水天門」を感々演奏しているのに、それを知らない為、実際に拝見しておく必要上と、明日の鹿兒島の演奏曲が「寂光院」であるゆえ、安徳帝、二位の局、建礼門院、その他平家一門の武将達の入水された壇の浦や、それ等の方々のお祀りしてある赤間神宮並びに平家の七盛塚、更にこの七盛塚の前で平家琵琶壇の浦の曲を演奏された耳なし芳一の像等にお詣りする為等々に因るものである。

本殿に敬虔な祈りを捧げ、その横にある七盛塚に瞑目。ふと感ず、一曲献奏しよう。社務所へ献奏の許可を得ようと歩を運ぶと、折よく官司が出て来られた。

「七盛塚の前で琵琶を献奏したいが……。」

「琵琶をお持ちですか。」

「はい。」

「それは大変結構です、七盛の他一門の方々も非常に喜ばれることでしょう。しばらくお待ち下さい、お席を造りますから。曲は何でしょうか。」

「水天門です。中尾正気斎先生作の。」

「中尾先生は度々ここへお詣りになり、私も親しくさせて頂いております。後程いろいろお話しましょう。弾奏をお始め下さい。」

その時の腰折れを数首。

七盛の 塚に白菊 いま供り
われは源氏の 末裔にして。
いつの世も 負ければ悲し 七盛の
塚に供へし 白菊のはな。
さざさらば 語りくらべん 芳一と

謹 賀 新 年

<p>〒124 薩摩琵琶 古家絃風 東京都葛飾区立石一丁目十九番 四号 電話(697)五七三九番</p>	<p>〒570 錦心流琵琶吟水会 小川吟水 小西甫水 金寄吟呂 守口市緑町土居団地十一号 電話(992)五六二五番</p>
--	---

<p>〒250-04 筑前橋会 押川旭葉 神奈川県箱根町強羅一三〇〇 電話(0460)二二二二二番</p>	<p>〒171 筑前琵琶旭鴻会本部 藤巻旭陽 藤巻旭鴻 東京都豊島区高松三ノ一二 電話東京〇三(955)三六四五番</p>
---	---

十一月十二日の鹿兒島薩摩琵琶同好会主催の演奏会の途次、その前日即ち十一日午前七時頃下関着、直ちにタクシーにて赤間神宮へ行く。先づ目を奪う壮麗な竜宮城を形どった門。これぞ名高い水天門。私が何故赤間神宮へ参拝したかと言うと、中尾正気斎先生作の

性 質

#1 コマ付け等によい、木製品専用
#2 皮、ゴム、プラスチック、金属、タイル張修理、家具の修理。
#3 ガラス、陶磁器、金属、木製品にも良い。
#4 #3と同じですが、速硬性です。
#5 #3と同性質ですが「パテ」状なので使用法が割合に楽です。乾くと非常に硬くなる。
(以下次号)

赤間神宮参拝記

平井春嶺

謹 賀 新 年

<p>〒573 松田旭波 枚方市御殿山南町三番 電話〇七二〇(四一)七六〇〇</p>	<p>〒544 高千穂旭楓 大阪市生野区小路二丁目 電話〇六(七五三)〇三二五番 (七五二)〇六六七番</p>	<p>〒587 榎本旭風 大阪市東成区神路三丁目八ノ十八 電話〇六(九八一)二二九一四 (九七二)二七七八番</p> <p>東大阪旭会</p>
--	---	---

<p>〒145 日本琵琶協会々長 玄海琵琶宗家 杉山清峰 東京都大田区東雪谷三丁目 二六ノ六 電話(720)二六三九番</p>	<p>〒431-31 晃陽小野鶴彦 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(34)〇八七一番</p> <p>薩摩琵琶絃会 浜松吟詠会</p>
---	--

私は芳一をお祀りしてある祠にも参拝し、懸案の赤間神宮にお詣り出来たので、清々しい気持ちで、ようやく陽のさし初めた神宮を辞した。宮司はバスの乗車場を教えて下され又の参拝を約してお別れし、勇躍鹿兒島指して出立した。

森鶴堂さんの主宰される静岡赤心会秋季琵琶演奏大会に出演のため田中駒水、植村寛水、矢吹華水、平井春嶺の四氏と共に十一月十八日朝七時、田中さん運転の車で秋のすがすがしい澄んだ空気を満喫しながら京都を出発、名神、東名高速道路に心地よいドライブを続け、途中二回の休憩をとりつゝ遙かに聳える富士の雄峰や、美保松原の遠景を左に望みながら正午過ぎ会場の静岡市駿府町(城内)の泉婦人会館に到着、まづ楽屋で森会長さんをはじめ東京・名古屋その他から来演の先生方と久闊を序した後演奏会場のぞいてみたが満員に近い聴衆は午前十時開演の地元や遠来の先生方の琵琶、詩吟の演奏を熱心に玩味し、一曲ごとに万雷の拍手を送っていたのはほゞえまじしい光景であった。

斯くて琵琶二十五曲、詩吟十九題をプログ

静岡演奏旅行記

梅原 旭 濤

あわれ平家の 七盛塚にて
そのかみの 芳一のごと われもまた
七盛塚の まえに琵琶弾く。
七盛の 塚の前にて 琵琶弾す
あかときごろの しじまさきつゝ。
七盛の われを呼ぶかと 目をあげば
稍なのめに 鳥の一羽。
右のように、非常に気負って演奏したのですが、今たに平家の亡霊のお迎えが来ないところをみると、やはり芳一に劣るからでしょう。閑話休題。その時の「水天門」の一曲は私としては今迄にない壮麗な気持ちで演奏したことは事実でしたし、その後の爽快な気持ちになったことも亦事実でした。

宮司に導かれて本殿横の応接間に通され、中尾正気斎先生のことども、又私の陋屋の近くに在る平野神社の宮司とは友人である等々話され、大変親近感を持たれて赤間神宮再建の御苦心談も拝聴した。私は芳一の人形を頒けて頂きたい旨申し入れたが、今は造っていないとのこと、そしてその理由が大変不思議だったので付記いたします。

且つて芳一人形を造って頒けておられたが二箇所からそれを返して来られた。しかもその二人共が夢で、芳一が赤間へ帰りたいと訴えたとの由で、以来、赤間神宮では芳一人形を造らないとのことでした。

それで現在琵琶の形をした土鈴を売って居られたので、それを需めたが、その土鈴の撻面のところに「耳なし芳一」と刻まれていた。

謹 賀 新 年	
<p>日本国風流詩吟小樽地区 錦心流琵琶小樽地区尊水会 錦心流琵琶小樽錦心クラブ</p> <p>総師範 尊水 北 国 凌</p> <p>〒047-01 小樽市桜二丁目十一番二八号 電話〇一三四(54) 七二八四番</p>	<p>愛媛琵琶連盟会長 薩摩琵琶松山晃絃会</p> <p>佐 藤 晃 絃</p> <p>〒790 松山市柳井町一丁目 電話(21) 二三一七番 居宅 松山市立花町三丁目五ノ六 電話(41) 三八八七番</p>
<p>水也田流教頭</p> <p>緑鷲芥美登里 進 水</p> <p>〒600 京都市下京区西新屋敷下之町 電話三四一 一六七四番</p>	<p>愛媛琵琶連盟副会長 筑 前 琵琶</p> <p>法興山 総 伝 白 石 旭 優</p> <p>〒790 松山市朝美一丁目五ノ二〇 電話〇八九九(22) 六八〇四番</p>
謹 賀 新 年	
<p>江 口 信 順</p> <p>録音テープ琵琶ファンの発言 声の琵琶新聞社</p> <p>〒164 東京都中野区上高田三丁目三十 六ノ六</p>	<p>物語びわ 宗家 浅 野 晴 風</p> <p>〒164 東京都中野区中野二ノ二五ノ六 電話(381) 八九二二番</p>
<p>伊 藤 磐 水</p> <p>錦心流一水会多摩支部長 武絃会事務所</p> <p>〒184 東京都小金井市本町二丁目八ノ五 電話(0423) 八一三三四番</p>	<p>北 中 旭 蝶</p> <p>姫路市花田町高木一八ノ四 電話姫路(23) 七一九五番</p> <p>〒671-02</p>

謹 賀 新 年	
<p>日本国風流詩吟小樽地区 錦心流琵琶小樽地区尊水会 錦心流琵琶小樽錦心クラブ</p> <p>総師範 尊水 北 国 凌</p> <p>〒047-01 小樽市桜二丁目十一番二八号 電話〇一三四(54) 七二八四番</p>	<p>愛媛琵琶連盟会長 薩摩琵琶松山晃絃会</p> <p>佐 藤 晃 絃</p> <p>〒790 松山市柳井町一丁目 電話(21) 二三一七番 居宅 松山市立花町三丁目五ノ六 電話(41) 三八八七番</p>
<p>水也田流教頭</p> <p>緑鷲芥美登里 進 水</p> <p>〒600 京都市下京区西新屋敷下之町 電話三四一 一六七四番</p>	<p>愛媛琵琶連盟副会長 筑 前 琵琶</p> <p>法興山 総 伝 白 石 旭 優</p> <p>〒790 松山市朝美一丁目五ノ二〇 電話〇八九九(22) 六八〇四番</p>
謹 賀 新 年	
<p>江 口 信 順</p> <p>録音テープ琵琶ファンの発言 声の琵琶新聞社</p> <p>〒164 東京都中野区上高田三丁目三十 六ノ六</p>	<p>物語びわ 宗家 浅 野 晴 風</p> <p>〒164 東京都中野区中野二ノ二五ノ六 電話(381) 八九二二番</p>
<p>伊 藤 磐 水</p> <p>錦心流一水会多摩支部長 武絃会事務所</p> <p>〒184 東京都小金井市本町二丁目八ノ五 電話(0423) 八一三三四番</p>	<p>北 中 旭 蝶</p> <p>姫路市花田町高木一八ノ四 電話姫路(23) 七一九五番</p> <p>〒671-02</p>

第十一回
三浦蓮水大会

ラム通り終つて六時半盛會裡に閉會、記念撮影の後車を連らねて郊外竜爪山麓の北沼上温泉旅館に席を移し、慰勞懇親の宴が張られて山海の珍味に舌鼓を打ちつゝ冴えた隠し芸続出、興の尽きるを知らなかつたが、十時半和氣譟々の内にお開きとなり、温泉で旅塵を流して心地よい静かな一夜を過ごした。

翌十九日は赤心会員市川竜堂氏の好意による密柑狩が附近の密柑山で催されて一同参加、秋晴れの半日を、見渡す限り全山黄金色に色どられた枝もたわゝの密柑を手にして心ゆくまで味わい、やがて眼下に渺茫たる太平洋を眺める山腹に、席を席いた野趣満々の臨時休憩場で別れの小宴が張られて乾盃の後一同散會、それぞれ右と左に袂をわちち、私達五人は再び高速道路を一路帰京の途につき薄暮帰着、思い出多い二日間の愉快な演奏旅行を終つた。(琵琶出演者と曲目別項参照)

因みに日本琵琶振興会長鈴木流泉氏は、十九日午後二時から静岡浅間神社拜殿で「逢坂山」を奉納演奏された。又東京竹下翠風、西郷天風師らも二日間の催しに参加し共に楽しまれた。

賀正

井上兼子

〒612
京都市伏見区深草瓦町六
電話(641)四八二〇番

菊花匂う秋晴れの十月二十九日、西宮市文化祭協賛、蓮水会主催の「琵琶と詩吟詩舞の會」は例年通り市立夙川公民館松下記念ホールで開催された。舞台背景の瑞雲も一きわ美しく、正面左右の大生花には東京池上先生のお名も見える。

零時半開會の挨拶で開幕、女性はブルー、男性はベージュの紋服の会員一同で蓮水会歌合唱、この時入場者相ついで、四百の座席は八分の入りとなり詩吟十数番に続いて詩舞青柳流の「五葉橋」は、丸々と太った可愛い、牛若丸が弁慶と戦つて之を家来にするご存じ五条橋。NHK新平家ブームで大変な人気である。次に蓮水会新人の琵琶「嵯峨野の秋」を初舞台の遠藤治子がつとめ、川上吟糸、吉田吟葉の「吉野山懐古」は二人の呼吸がよく合い、男性陣蓮水会員田村吟魁、楊吟清掛合の「河中島」は意気の合つた熟演で両雄丁々発止と火花を散らす光景を彷彿せしめた。

それから哲泉流若手新鋭の見事な吟詠数番のあと高三の吉山蓮紅の楚楚たる琵琶「月下の陣」。この時分会場は超満員となり、後ろの方は重なり合つて立つたまま聴いて下さる有難さに感謝一ぱいで、一同大張り切り。

謹賀新年

筑前琵琶旭会
舞鶴支部
教授高橋旭洋
〒625
自宅舞鶴市五条敷島南入二軒目
電話〇七七三(62)五二六二番

謹賀新年

故鈴木蘭光
榮子
青雲流琵琶楽
〒485
小牧市藤島団地四六七号
電話小牧(76)七二五七番

千葉吟泉、竹内渡水合奏「崖島回顧」の熱演に続いて女流山崎蓮枝の「浮舟」は、優雅な浮舟にもまがり麗人の演奏。「菊水の旗」は蓮水会の古参反町紫水の熟演で拍手の雨。詩舞「平教盛」青柳流家元と青柳芳花の美しい連舞は、源平の昔が滲ばれ見る人を夢幻の境に誘い、哲泉流日本吟詩学会の秀吟三題「獄中作」喜多睦春、「憶母」湯浅鋼泉、「詠小楠公母」吟者春原侑子、松井美登子姉妹の連吟は聴衆を深く感激せしめた。

この時西宮市長辰馬竜雄氏が来場されて懇篤な御挨拶を戴き、続いて蓮水後援会長加藤弥三二氏の挨拶があつて、三浦蓮水演奏の琵琶「母常盛」を、青柳芳栄さんが乳児牛若をふところ、今若、乙若の手を引き、伏見の雪中をさ迷う母の苦難と無心の子の涙の場面を遺憾なく展開した。

このあと松野紫雲(蓮水の夫)の喜寿を祝し、紫雲作の琵琶新作七曲を本日演奏するに当り、会員一同から紫雲と会主蓮水に花束の贈呈、同時に祝電四十七通が披露された。

プログラムは進み一水会神戸支部理事久内舟水氏の「琵琶塚」は歌絃共に同流のホープとして定評があり、臨摩正派の雄京都の春嶺会長平井春嶺氏の「文天祥」は格調高い演奏で拍手喝采、一水会神戸支部長蔵本司水氏は永い闘病生活を克服され数年振りの出演で「大和懐古」を熟演され、錦水流関西の大御所としての貫録を示された。

の詩吟哲泉流幹部の素晴らしい吟詠三氏に続き、筑前琵琶の名人旭萃会長大阪山崎旭萃師の松野紫雲作「巖島の戦」は豪快無比の名演技で絶讃を拍し、続いて会主三浦蓮水演奏松野紫雲作「日蓮誕生」は法華経の行者日蓮上人が安房千光山旭ヶ森に立ち昇る朝日に向いつゝ始めて南無妙法蓮華経を唱える立宗の劇的場面、そしてこの時蓮長を日蓮と改名したという真迫の熟演で万雷の拍手を以て目出度く閉會、記念撮影のあと二階和室で一同乾盃し和氣あふれる宴の後散會した。(蓮水会報)

「三位会」に寄せて

邦楽評論家 早乙女千秋

去る霜月二十三日、東京三鷹の上連雀公会堂に於て、日本琵琶の真髄を提唱する三位会の第三回例会が午後一時から開催された(別項参照)係)。以下はその時の「寸評」だが、私は途中から参會した、め山崎光水氏の「静」と藤井氏の「本能寺」に関する論評の筆は抜きにして、先づ、多忙な身を鎌倉から馳せ参じた曾我電城師の「小松の操」だが、その重厚な語りにも拘らず、全般的に些か駆け足的な演奏が何とも惜しまれてならぬ。次の機会にはじっくりと腰を据えて同師の演奏に期待したい。

謹賀新年

市来芦村
〒659
芦屋市三条町二四八
電話〇七九七(22)四三三八番

謹賀新年

伊藤金松
〒085
釧路市北大通り五ノ六
電話(22)二四七三番

武絃 合同研修会 武絃第九十回、多摩支部

第六回赤心会 十一月十八日(土)十時秋の大会 十八時半静岡岡原婦人会館主催同会。金剛石市川昇博、蓬萊山杉山昇邦、白虎隊市川竜堂、桶狭間森風堂、常陸丸焼津広任秋水、月下陣一東京青藤榎堂、武蔵野浜松染谷晃岳、粟津の巴一東京福田雅幸、由比正雪三上晃城、泊り舟一東京緒方晴舟、赤心流門琵琶一森鷗堂、森鳳堂市川竜堂、高松城一京都田中鶴水、物狂一名古屋山田叢雲、青葉の笛一京都矢吹華水、横笛一京都植村真水、広瀬中佐一東京仲川秀邦、小教盛一東京八束一峰、堅田落一京都梅原旭壽、川中島一京都平井春嶺、湯陽江(上)一東京関口竜城、同(下)一東京望月啞江、逢坂山一東京鈴木流泉、竹生島一浜松小野鶴城、重衡一小川野水、吉野落(上)一岡尾鶴城、同(下)一會長森鷗堂。十九日静岡岡原神社奉納琵琶逢坂山一東京鈴木流泉、外に該十九題(別項参照)

午東京日本橋の東京証券ホールに於て開催盛會であつた。榎本師は人も知る鋪心流の重鎮で毎年春秋の二回定期的に洩奏会を開かれ今回は第四百四十二回で、明年は五月二日と十一月八日に同会館で開催が決定している。静御前一吉田芝翠、常磐御前一西澤水、舟弁慶一大森和木、本能寺一高松秀水、里吉溪水、常陸丸一木村東水、紅葉狩一柿木昌水、扇の的一会田映水、湖水乗切(録音)一故小林信水、鉦の木一長野榮水、山科の別れ一野池信水、五条橋一小嶺派水、雪晴れ一安藤敬水、白虎隊一太白詩水、井伊大老一吉田梗水、小督一筒井秀水、竜の口一加藤斐水、日蓮と阿仏功一北沢来水、滝口入道一榎本芝水

山崎旭萃会 十一月二十二日(水)午前十時全国大会 半大阪高麗橋の三越劇場で山崎旭萃師主宰の橋会全国大会が開催されて各地の精鋭が覇を競い琵琶十八、管吟十三題が公演されたが流石に技を誇る橋会の芸は奥深く敬服の度を深めた。たゞ惜しい事に休日でなかったのと朝来異常の寒風が吹きすさんで聴客の出足を阻んだためか満員の盛況を呈するに至らなかったのは残念で各地の選抜一流琵琶人の名演を披露されるには些か勿体ない気がした。五時半終演後北浜のアラスカで慰労の宴が張られて松野紫雲、板谷翼、天津八千代、梅原旭壽、平井春嶺、植村真水の諸氏も列席し七時半散会。(琵琶吟) 赤垣源威一永井美江、日本号一齊藤見津江、富士を讀める一田和緩奉、川中島一野田敏子、関ヶ原一高橋栄寿、教盛塚一堀田美栄、教盛一西村庄一五条の橋一中西芳寿、曾我兄弟一原田庄一明石の浦一水谷旭甫、管我兄弟一原田庄一教盛塚一富士貴世(琵琶吟) 俱利伽羅峠一南田旭良、高島旭芳、絃旭照、舟弁慶一島田旭千、源美朝一松山和、田旭秀、西郷隆盛一京都田中旭法、絃旭美津、加藤清正一愛知花輪旭興、禪師と正宗一木村旭勝、神戸安住旭康、京都矢吹旭美津、戦艦大和一小倉小野旭枝大楠公一大阪渡島旭鶯、上杉謙信一林光智

部第二十一回の研修会を十一月十九日(日)午後一時一七時小金井市福祉会館で開催。舟弁慶一具究静軒、西郷隆盛一工藤秀秀、白虎隊一渡部喜山、扇の的一石井效水、父乃木將軍一伊藤馨水、羅生門一中村修水、新撰組一押谷君水、城山一清水源城、竜の口一加藤喜水、芭蕉の旅一大村敏城、勸進帳一坂本錦道、須磨の教盛一村木桜柳。尚次回は十二月十七日納会忘年会開催の予定。

三位研修 十月二十二日(日)午後一時一同志会例会 五時第二回例会、十一月二十

次に大村先生の「島原合戦」は文字通り仕者をしのお元氣さで、坂本さんの「勸進帳」と西村老の「吉野落(下)」と共に枯淡の味わいも深く、若い人達はおのが「琵琶道」のためにも、大いに先輩諸師のよいところを学んでもらいたい。その烈々たる気持は、まことに琵琶人はかくあるべしと、思わず膝を叩いて共感・共鳴した。余人は知らず、俗に云う「雀百まで」のたとえで、私はぜひそうあつてほしいもの、と想っている。また、独自の「物語琵琶」知られる杉山旗水師の「会津の華」は、人も知る明治成申の華と謳われた「白虎隊」と共に、有名な会津娘子隊にまつわる一連の物語で、同じ会津出身の生田晃堂先生の「会津の稚児桜」と共に言々句々胸打つ想いで、まさに一掬の涙を禁じ得ないところである。更に山本隆水さんの「常陸丸」と、伊藤馨水さんの「父・乃木將軍」は結構であつたが、いま一つピリッとパンチを利かせる所があれば尚結構だと思ひます。最後に、当日「紅一点」の矢仲紀美子さんの「紅葉狩」。お声はよいが、今後一層の努力と精進を切望する次第。叩けばおのずとその道が開かれようと云うものではあるまいか。

三日(内)午後一時一七時第三回例会をそれぞれ三鷹市上連雀地区公会堂で開催、交々演奏して有意義を集りであった。①舟弁慶一具究静軒、月下の陣一矢仲紀美子、利休の最期一山崎光水、教盛一堀田美栄、義経弓流し一山本馨水、台湾人一西澤水、白虎隊一仲川秀邦、川中島一野田敏子、関ヶ原一高橋栄寿、②舟弁慶一具究静軒、本能寺一藤井雄威、静一山崎光水、島原合戦(初)一大村敏城、常陸丸一山本隆水、小松の操(口)一曾我馨水、会津長一坂本錦道、父乃木將軍一伊藤馨水、津田堂、吉野落(下)一西村敏城、会津の稚児桜一生田晃堂。(この項別記参照) 京都琵琶協例会 十一月十五日(水)午後および紅葉狩 一時京阪電車浜大津駅集合、四台の車に分乗して大津市坂本町日吉神社境内の日吉山荘に到着いた伊吹夫妻、戸倉、戸田、若宮、田中、梅原、矢吹、安住、古谷、美登里、水内、平井夫妻の十四人の外平井門下の山本、森田、それにゲスト松岡旭岡師の総勢十七人は、小憩後あい憎降り出した村雨の中を日吉神社に参拝し、附近一体の見事な鋪道に包まれた中を散策、けいかんたる深流の畔に浴塵を洗い、幽静たる禅域に心身を浄めて記念撮影の後日吉山荘に帰り、今朝鹿兒島の演奏旅行から帰ったばかりの平井春嶺氏の土産ザボン漬を頂きながら芸談雑談に花が咲き、山本嶺舟氏の「武蔵野」を聴いたあと近江牛のすき焼に舌鼓を打ち、松岡師を囲んで和氣満々裡に七時散会、時雨の中を家路に向つた。

榎本芝水 静寂の秋、清澄の秋、鑑賞秋季演奏会 秋の十一月十六日(木)正

謹賀新年

〒607 山本旭英 京都市東山区山科竹鼻堂ノ前町二八 電話〇七五(581)七六五三番	〒183 剣道七段教士坂本直道 東京都府中市新町二丁目六八	〒535 塩谷旭洲 財団法人日本民謡協会参与 薩摩琵琶 吉水錦翁門下 錦道 大阪市旭区中宮四丁目二丁二四 電話(951)九二九四番	〒176 鈴木誉士 筑前琵琶大阪中央部旭会 東京都練馬区豊玉北五ノ一一 芸の友社 電話(991)〇三六三番
---	-------------------------------------	--	--

〒618 秋元旭晨 大阪府三島郡島本町桜井四丁目一八ノ一〇 電話〇七五(961)五〇四三番	〒040 西村映水 函館市柳町三ノ一五 電話〇一三八(51)七九九九番	〒466 菅沼響水 錦心流琵琶教授 名古屋市昭和区塩付通二ノ三五 電話〇五二(761)四七〇八番	〒155 榎本芝水 東京都世田谷区代沢二ノ四八ノ三 電話(467)〇八二八番
--	--	--	---